

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190100059		
法人名	株式会社ライフサポート		
事業所名	グループホーム みんなのいえ		
所在地	佐賀市久保泉町川久保875番地1		
自己評価作成日	平成30年1月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp</a>
-------------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成30年1月22日	外部評価確定日	平成30年2月15日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>事業所周辺には小学校・公民館があることから地元の方たちがよく通る道路沿いにある。利用者と散歩をしていると「みんなのいえさん？」と声をかけられることもあり、地域の方が野菜を分けて頂いたりと交流が行われている。また地域行事には積極的に参加しており、「今年は何人来られますか？」と地域の方から尋ねてもらえるような関係性が徐々に出来つつある。近所には協力医療機関である歯科や医院もありすぐに診て頂けるような体制を整えている。職員には今までの生活の継続を支援してもらえるよう、暦や習慣を大切に日々の介護を行っている。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>介護理念に「○○をしたい！！」という気持ちを大切にと掲げている通り、今年の目標を利用者各々が短冊に書いている。美味しいものを食べる、ハンサムな人とデートする等々、時には笑みがこぼれるユーモアセンスもあり、利用者の日常までもが垣間見えてくる。リスクを危惧するのではなく、リスクを下げる工夫をし、本人の想いに応えていく姿勢が事業所には窺える。同じフロアにある小規模側の施設(設備)も線を引くのではなく利活用しているのが特長である。基本的に利用者は自由に行動し、職員の目配りと気配りで安全で安心な生活が支援されている。</p>
---

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念は玄関に掲示するとともに朝ミーティング内で理念を唱和している。また職員一人一人に倫理規定と理念を記載したものを渡し、日々確認できるようにしている。	理念は11年前に小規模多機能型施設を開設した際、当時の職員達が創り上げたものである。法人内で統一され、現在も引き継いでいる。毎朝の唱和の他に、年に一度は理念ができた背景を説き、浸透を図っている。「できうる限り自分らしい生活の継続を」「最後まで慣れ親しんだ地域で暮らしたい」と謳い、具体的な行動目標を掲げ、最後に「私たちは決してあきらめません」と結んでいる。利用者の行動を抑えることなく、理解しようと努める姿勢にはそれが活かされているのが窺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月一回行われている地元の青空市に買い物に出かけたり、地域の行事に出かけている。また随時、歩ける方は近所のコンビニまで散歩がてら外出している。	自治会に加入し、回覧板や地元に住む職員もおり地域の情報は得られている。地区の夏祭りや清掃活動等にも積極的に参加している。事業所が建つ地域には先に開設した他法人施設があり、高齢者世帯も増えつつある現状で、住民には介護等に関する理解もある。見守りや連絡を頼める関係は築けている。また、災害時の福祉避難所として提供することも承諾しており、地域に暮らす一員として役割も担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で、利用者の状況、困難な所など伝えている。また今後の介護の動向についても話し合いをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員や利用者代表、施設スタッフを交えて定期的に関催し、意見交換などを行っている。	約2時間の会議は、事業所をより知ってもらう機会というだけでなく、地域の情報交換の場にもなっている。メンバーからまちづくり協議会発足について話があったり、そこに参加依頼があるなど、会議時間を短く感じるほど意見は活発に出されている。この会議には家族の出席もお願いしており、周知は全員に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターや市役所とは報告や相談など連絡を密に行っている。また地域ケア会議も開催している。	行政側の担当者とは運営推進会議以外での接点もあり顔馴染みである。相談事にはすぐに電話を掛けたり、案件によっては直接出向くこともある。最近の例では、商品の配達を始めたスーパーがあると教えられ利用できるケースを検討するなど、高齢者の生活に密着した情報もある。行政側にも問題があれば一緒に取り組む姿勢がみられ協働関係は築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	決まった時間以外での施錠などは行わず、自由に散歩や買い物(スタッフ同行での)等を行っている。	年一回は外部研修を計画し、受講した職員は全員に伝達講習をする役割もある。玄関に施錠はなく、センサーによるチャイムは鳴るが職員の目配り等で安全な生活が確保されている。仮に外へ向かう利用者があっても無理に引き返すことはせず、本人が納得するまで暫く一緒に歩くというのが基本である。行動を抑えることはない。もし管理者が不適切な場面に遭遇したら、自分がされて嫌なことはないという基本を説き、職員自身に考えさせ理解を促すこととしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議での議題にあげスタッフ全員に周知徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議にて制度について学ぶ時間を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者・ケアマネジャーよりご家族への説明を行い、不安なことや疑問にも理解していただくまで時間をかけ説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や職員会議の中で時間をとって説明を行っている。また家族の面会時や電話で随時意見交換を行っている。	入居契約時に月一回の面会はお願している。利用料支払い方法に敢えて現金払いがあるのもそのためである。遠方の家族には電話での状況報告も行っている。来所時は家族との会話の機会でもあり、世間話なども交え何でも話してもらえるよう努めている。出された意見は前向きに活かす体制もある。ご意見箱への投函はないが、事業所外にも苦情相談窓口があることは書類に明記され説明も行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の中で意見交換を行っている。業務改善提案書の様式も準備しており、運営に関する提案をする機会を設けている。	月一回の職員会議は約90分を要し、同じ建物内の他部署職員も合同である。これには休みの職員も出席している。利用者毎のカンファレンスや勉強会は別途時間を設け、周知事項や意見交換を主としている。これまで外部委託していた主菜・副菜を、現在、全て事業所で作るようになった件は、ここでの意見からである。また、管理者としては働き易い職場であるよう配慮も必要で、日頃から気軽に話してもらえるよう努めている。倫理規定や理念には想いの深さが表れ、故に職員には介護のプロとして求めるものも多い。指導では悩む姿も窺える。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	双方向評価シートの記入及び、面談を通して環境・条件整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修はもちろん日々の仕事の中で気付いた点などを伝え修正していった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議に出席したり、地域包括支援センター主催の会議に出席し質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、スタッフが直接聞いたことを全スタッフで共有し関係づくりを行えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時や面会時等に家族と話をすることで家族の望みを聞き実施していくことで家族からの信頼を得て関係作りができています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自分たちのサービスを前提としてお話を伺うのではなく、ご本人の不安や要望を聞くようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に調理の盛り付けをしたりすることで、利用者とスタッフの関係を築く中で利用者同士の関係性も少しずつ築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に本人の状況等を報告し情報を共有することで築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅に日中帰宅しているかたもいる。家族の力も借りて、「今までの生活」を継続できるように支援している。	入居までの人間関係などは本人や家族はもとより、担当のケアマネジャーや場合によっては利用していたサービス事業所からも話を聞き情報を集めている。具体的な支援としては、携帯電話を持つ利用者もいるが一般電話の取次ぎや馴染みの美容院へ通うこと、年賀状を書いたり墓参りへの同行などがある。また、月に一度、普段は閉めている自宅へ戻る利用者もあり、掃除や仏壇へのお参り、時には昔話など、職員は入居後も延長線上であるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が日常的に話をしている為話があまり得意でない利用者様には職員が間に入り話ができるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地元のイベントで会うことはあるが、相談や支援までには至っていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の会話の中で本人の希望を聞きスタッフで共有している。	利用者が想いを話してくれるのは就寝前にリビングで話し相手をしている時や、入浴中のリラックスしているひとときが多い。聞き取ったことは口頭で伝えあい、職員間で共有を図っている。そこからケアプランに反映させた例もある。また、回想法というカードの絵から利用者の様々な記憶等を引き出す手法も取り入れケアに活かしている。直に接する職員の観察と現行アセスメントに乖離があった場合も速やかに変更されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様には日常の会話の中に昔の話を交えて話をし把握するように努めている。また家族からも情報を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々接する中で知りえた情報等を朝・タミーティング等で情報の共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様や家族の希望を聞き、それに対する課題やケアのあり方の話を実践することで、本人に合った介護ができるように作成している。	ケアプランの設定期間は6ヵ月ごととしているが、変化があれば臨機応変に見直しを行っている。本人の希望は日々のケアの中で把握し、家族の要望等は会話の中から汲み取っている。現状維持を願う意見のほか、通院結果を当日に知りたいという希望もあり応えている。また、オリジナルの介護計画書があり、一日の流れに沿って個別プランや留意事項が記せるようになっている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録はもちろん朝・夕のミーティングで報告し上手くいった事を実践したりしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族からの外出希望など臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館で行われる音楽会や神社のお祭りなどに参加して、地域での暮らしを支えられるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは常に連携を取り利用者様に変化があった場合は管理者報告後かかりつけ医に相談をしている。	もともと母体医院の患者だった人、以前からのかかりつけ医へ通う人、また、協力医である母体医院が隣接している安心感から入居後に変更を希望する人など、それぞれの意向に沿った支援を行っている。他科診療が必要な時も、まず本人や家族の意向を尋ね対応している。受診は職員が付き添うことが殆どで、その結果報告は当日中に行っている。家族が付き添う場合には、日常の様子を記す様式があり持参してもらっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回医院の看護師に来てもらい利用者の状況を見て頂いている。またその時に日々の利用者の情報を伝達・相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には職員が同行し日々の状況を医療関係者に伝えるようにしている。退院時にはカンファレンスに参加し、関係作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の時に説明を行うとともに、終末期が予測された段階から本人や家族とは話し合うようにしている。	入居契約時に方針の説明を行っている。これまでに看取りの経験があり、今後も希望があればその用意もある。母体医院が隣接していることは職員にも心強く、その時期が迫れば夜間には管理者も泊まることもある。容態の変化に伴い家族の気持ちも揺れ動く事を踏まえ、何度でも話し合いを重ねる事としている。本人や家族が安心して最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地域の小学校での救命講習会に必ず職員を参加させている。急変の時など分からないことがあった時は管理者に報告し指示を仰ぐようにしている。	/	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民参加の避難訓練に参加している。また運営推進会議の場でも多く議題にあがり、話し合いを行っている。	年2回、そのうち一回は消防署にも立ち会ってもらい避難訓練を行っている。夜間は想定のみで昼間帯ではあるが、夕方17時頃にも行っている。利用者も一緒に避難を体験しており、隣接する母体医院を一次避難場所とし、家族にも周知している。また、自然災害の折には地域住民、特に妊産婦の受け入れ先として事業所を提供することにも同意している。職員は消火器と火災通報装置の使い方を承知しており、訓練には近隣住民の参加協力も得られている。課題や反省点は速やかに改善され全員に周知している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の性格を考慮し、その人に合った言葉かけや対応を行っている。	排泄や入浴の場面では特に、自尊心や羞恥心にも配慮したケアが行われている。「自分がされて嫌なことはしない」という基本が説かれているからである。また、利用者との関わりが深くなるほど個人情報も知り得る立場となるが、忘れないようメモした紙でさえもシュレッダーへと指導している。入居契約時には「個人情報の取扱いに関する同意」を示し、行事等で家族が写る写真にも公開の承諾を得ている。	



自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	すべての事柄に本人に確認して対応をするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	予定がある時は前もって本人に伝えている。どのように過ごしたいか朝の段階で聞くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備の際にご本人にも立ち会ってもらい好きな衣類を準備している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は利用者様と一緒にやっている。食事のメニューが決まっている為好みに沿っていない場合はあるが、おやつ等で好きなものを聞きおやつの時に食べれるように支援している	メニューは以前、主菜等を発注していた業者のものを参考にしている。利用者からリクエストがあれば組み入れて提供している。準備など手伝えることで加わる利用者もある。好き嫌いやアレルギー有無の把握もしており、苦手な食材(メニュー)の時は代替を用意している。利用者に食欲はあるが、なかなか箸が進まない場合でも介助は最小限に止め、自分で口へ運んでもらうよう言葉掛けを行っている。食べ易い形状はもちろん、スプーンや器も工夫している。また、誕生日は当日に祝い、ケーキなどは本人の希望のものを用意している。食事時、職員は同じものを一緒に食べながら、お茶の世話や箸が進むような声掛けをし、和やかな雰囲気である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ポカリスエットやお茶など利用者の手の届くところに準備している。また個別援助計画でより個々の状態に沿った支援を計画している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方には言葉かけを行い行ってもらうよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立している方が多いが介助が必要な方には日中はトイレに行こうとされている際に言葉かけを行いトイレにて介助を行っている。夜間帯は定時の排泄介助を行い気持ち良く夜間を過ごしてもらえるよう支援している。	殆どの利用者は自立しているが、任せたままではなく、さりげない見守りと羞恥心にも配慮しながら確認・把握を行っている。日中、夜間共にトイレでの排泄を主とし、こまめなケアで支援している。便座回りには手摺りはもとより、可動式ひじ掛けの設置もあり、立ち座りの補助具として自立の維持にもなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様の体調に合わせて、水分を多めに飲んでもらったり対応している。最終排便日を記録に設け確認を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者様には前日入浴であること伝え、時間等は外出や特段の理由がない場合は決めず当日の利用者様の状態に合わせて言葉かけを行っている。 また、時間の希望がある場合は自由に入浴出来るようにしている。	入浴は一日置きで、時間帯も日勤者がいる間であればいつでも可能である。拒む利用者は多く、入浴後には「気持ちよかった」と喜んでもらえるものの、職員の工夫や誘導スキルが発揮されている。体調不良も含め、入浴しない日には清拭や足浴での対応もある。浴室に設置された全身シャワーは、車椅子使用の人でも浴槽に浸ったような満足感が得られる機器である。浴室や脱衣場共に暖房設備があり、ヒートショック対策も万全である。衣服の脱ぎ着は出来るだけ本人に任せ、職員は見守りながらのケアである。また、グループホームと同じフロアにある小規模多機能型施設にも浴室があり、デザインや設えは少し違うが、却って利用者に合った方で支援できるというメリットもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	音や話し声には注意し利用者様の眠りの妨げになるような事は行わない様努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員にはお薬手帳が常に確認できるよう薬庫に常時保管している。 また薬の変更も申送り職員に伝え利用者様の状況を確認するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性の利用者様には食事の準備の手伝いや洗濯物の整理等をお願いしている。 男性の利用者様には掃除や女性の利用者様では難しい力の必要な事をお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて近くまで職員と買い物には出かけているが、家族や地域の方と外出は出来ていない。	本人から希望を口にすることもあり、おやつや日用品の買物などは日常的に支援されている。月に一度の青空市にも出掛けている。また、事業所は利用者を内に留めるのではなく、自由に出掛けてもらうという姿勢でもある。事業所横の田んぼ道は自治体により舗装され安全な散歩コースとして利用できている。季節毎の花見にも出掛け、近くのサービスエリアで外食することもある。歩行が難しい場合は車椅子も使用し、みんなで出掛けている。日差しを浴びることを楽しみ、外へ出ないという利用者はいない。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の難しい方のお金は預かり金として保管し本人希望時にお渡ししている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様から家族へ電話したいと希望があった場合は理由を聞いた上で管理者に報告して連絡を行うようにしている。 また家族様からの連絡も利用者様に取り次ぐ体制をとっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの掃除は夜勤・日勤の二つの時間帯で掃除を行い不快な思いをされないように心掛けている。 また利用者様が作った折り紙や創作品を飾ったり散歩の時に取ってこられた花や緑を飾るようにしている。	リビングでは空気清浄や乾燥を防ぐ機器が作動し、廊下にも歩行を妨げる物はなく、利用者は安全に過ごせているのが窺える。同じフロアの小規模側施設に共有できるスペースもあり、眺めのよいリビングの畳コーナーで寛げることは事業所の特長でもある。また、掃除は利用者のほぼ全員が手伝える状況で一緒に行うこともある。職員は換気等にも配慮し、利用者が手を触れる手摺り等の消毒もこまめに行っている。浴室やトイレはきれいに掃除され、嫌な臭気はない。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースのソファは自由に座ってもらえる状態にしている。 また食事の場所も気の合う利用者通しで座れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室においてあるものは、火気を除き限定しておらず、荷物の持ち込みは自由となっている。 また置き方等も転倒の危険性がない限り自由におけるようになっている。	各居室にクローゼットが設えてあることは、収納と室内の整理整頓にも役立っている。ベッドからドアまでの動線上に動きを妨げる物を置かないというのが基本で、それ以外は自由な配置で過ごしてもらっている。仏壇を持つ利用者は毎日自分で水などを供え、職員はそれを見守っている。居室の掃除は利用者も一緒に行うことが多く、飾り付け等も話し合いながら居心地よく過ごしてもらえるよう支援している。また、家族が希望すれば居室での宿泊も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は自由に動かれている。職員は利用者の行動を制止することなく一部の支援や言葉掛けのみに徹している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)  
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない